

市民会議

何をするの

新しい総合計画づくりを進めます。新しい総合計画の基本構想の策定に向けて、どんなまちにしたいかをみんなで考えてまとめます

なぜするの

市民が集まって、箕面市の将来について話し合う場を設け、「住み続けたいまち」を市民と行政が協働して創っていくためです

どのくらいの間
するの

会議は、平成19年6月から、提言書の提出までを予定しています

どんなふう
にするの

平成19年度は、まちのことや行政のことについて学びます
平成20年度は、学んだことを話し合い、提言をまとめます
提言書の提出後も、まちづくりに向けて、様々な活動を行います
会議は月2回程度行う予定ですが、会議の運営や予算の使い方、進め方などはすべて会議の中で決めていきます

誰が
参加できるの

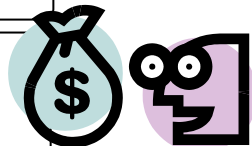
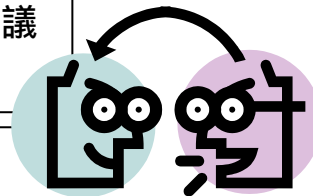
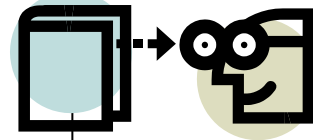
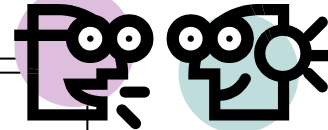
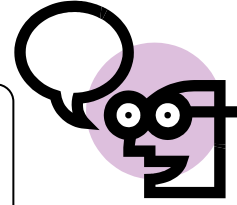
箕面市在住・在勤・在学のいずれかに当てはまる16歳以上の人なら、誰でも会議に登録し、参加できます

市は
何をするの

市は、会議運営にかかる予算の拠出、資料等の情報提供などを行います
また、サポートスタッフとして市職員が会議に参加し、お手伝いします

報酬は
どの

報酬は出ませんが、会議の運営に必要な事務費はあります



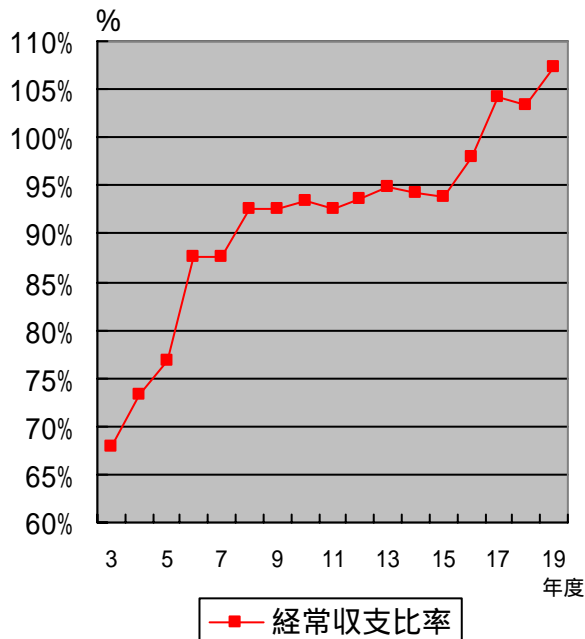
箕面市の現況

今なお深刻な財政状況 構造的改革が必要

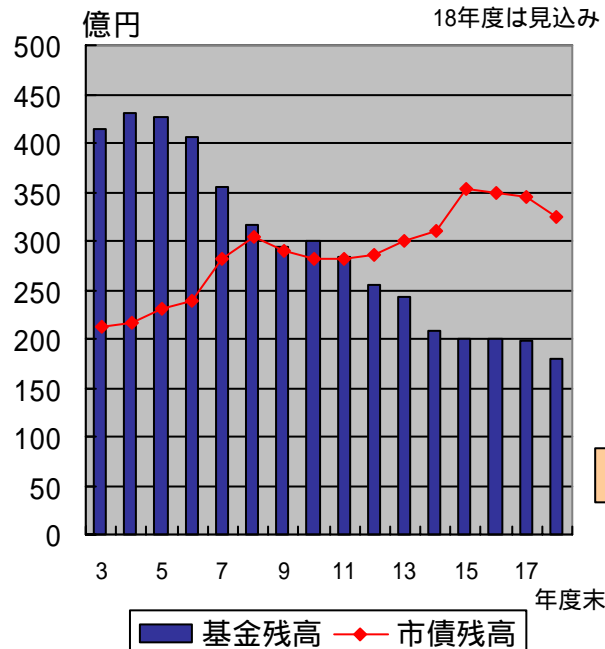
* 補完性の原則
* バリューフォー
マナー (VFM)

さらに、業務執行の効率化と、官民の役割分担の見直しを進める必要がある。

経常収支比率



基金残高と市債残高



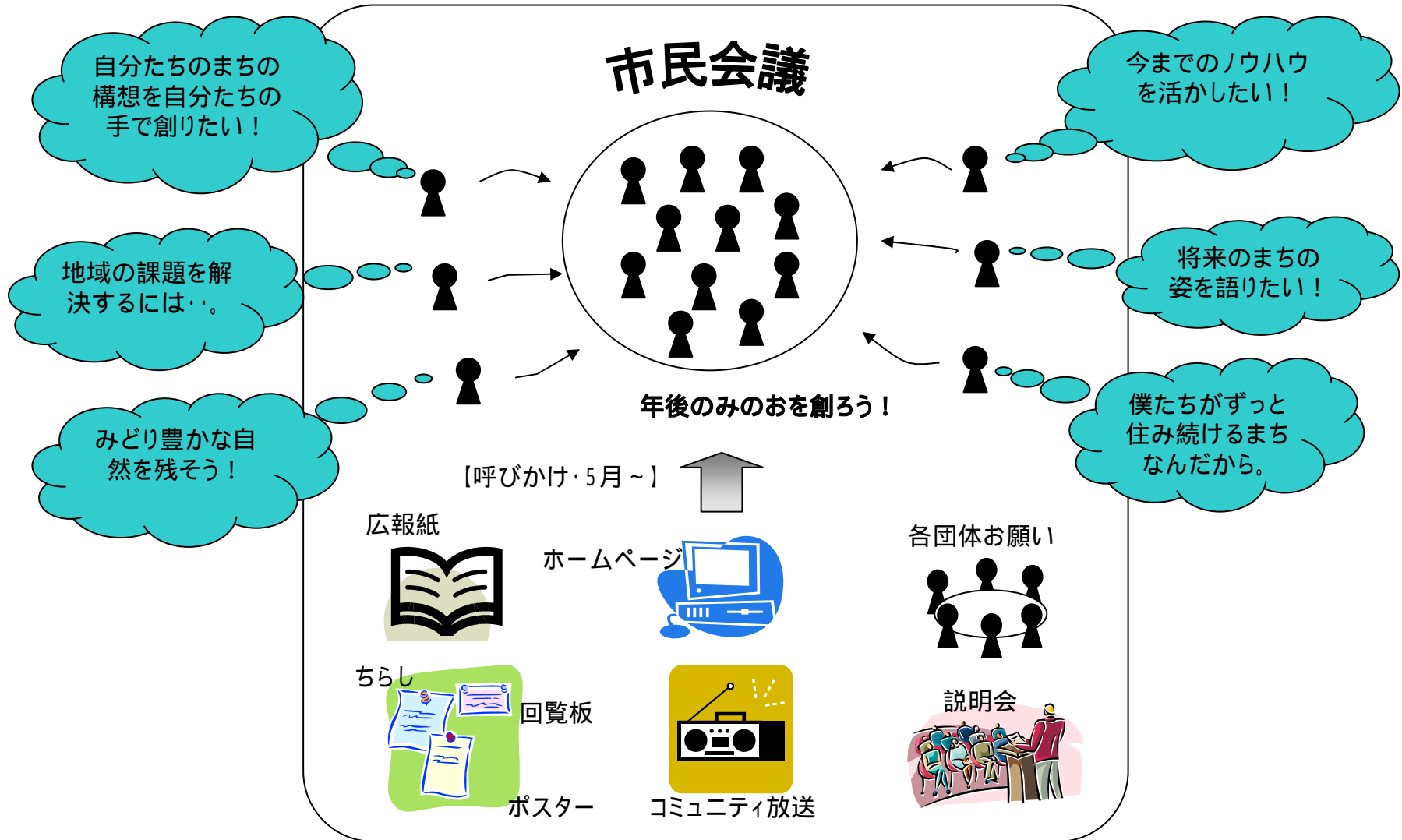
自治体財政の健全性を測る尺度である経常収支比率は、平成8年度以降90%を超える状況となり、平成19年度当初予算では、107.4% (減税補てん債及び臨時財政対策債を一般財源に算入) となっており、財政の硬直化は極めて深刻な状況にある。

基金と市債についても今なお深刻な状況にある。かつて430億円を超えていた基金残高は、平成18年度末の見込みでは、半分以下の約180億円となっており、まもなく4割以下となる。一方、市債残高は逆に325億円を超えるに至っている。

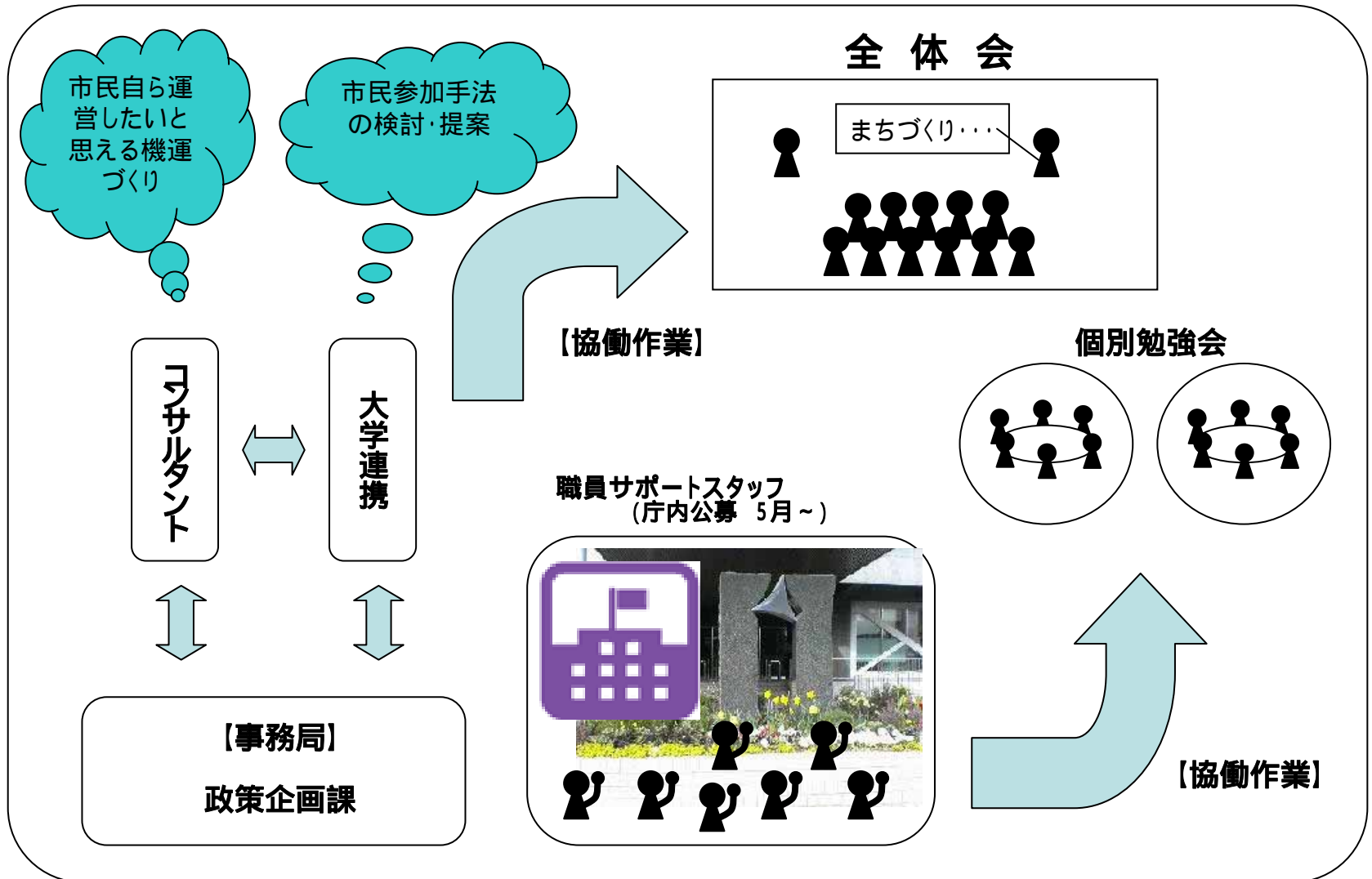
構造的改革

- 事業の廃止・見直し
- 業務の再構築
- 職員定数の見直し
- 給与等の見直し
- など

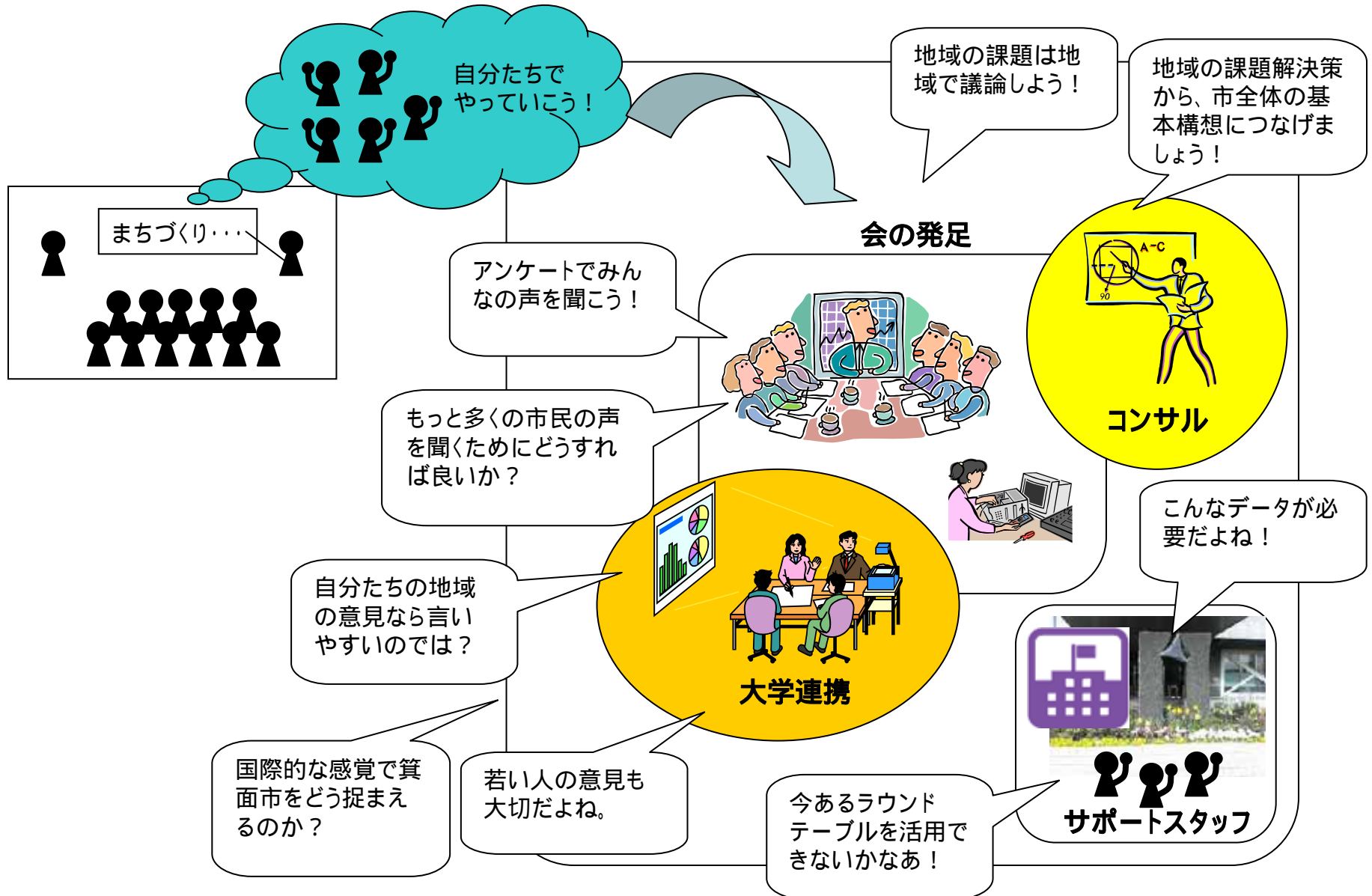
市民会議 (市民公募…平成19年度前期)



市民会議 (全体会・勉強会・・・平成19年度前期)

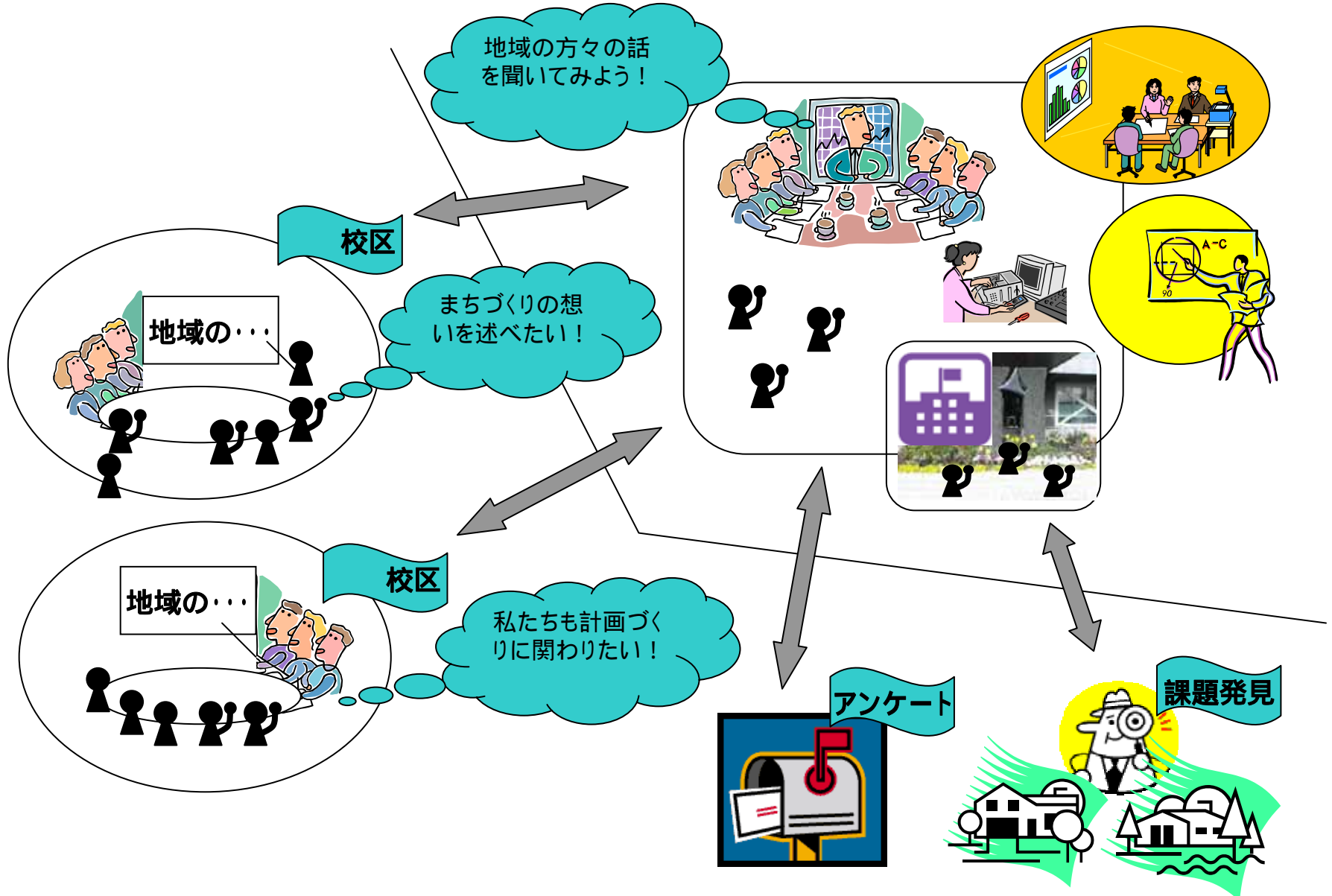


市民会議 (組織発足…平成19年度後期)

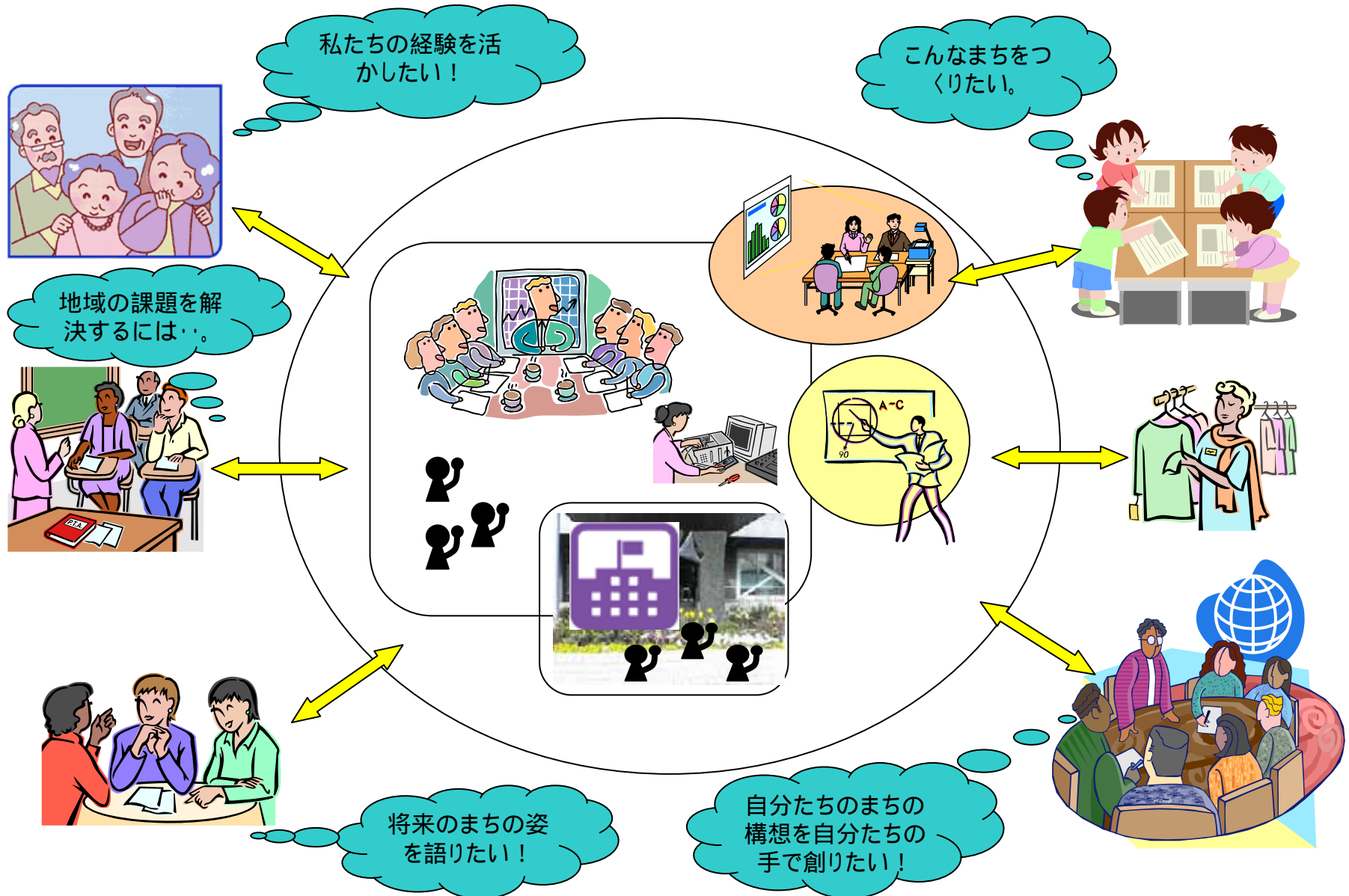


市民会議

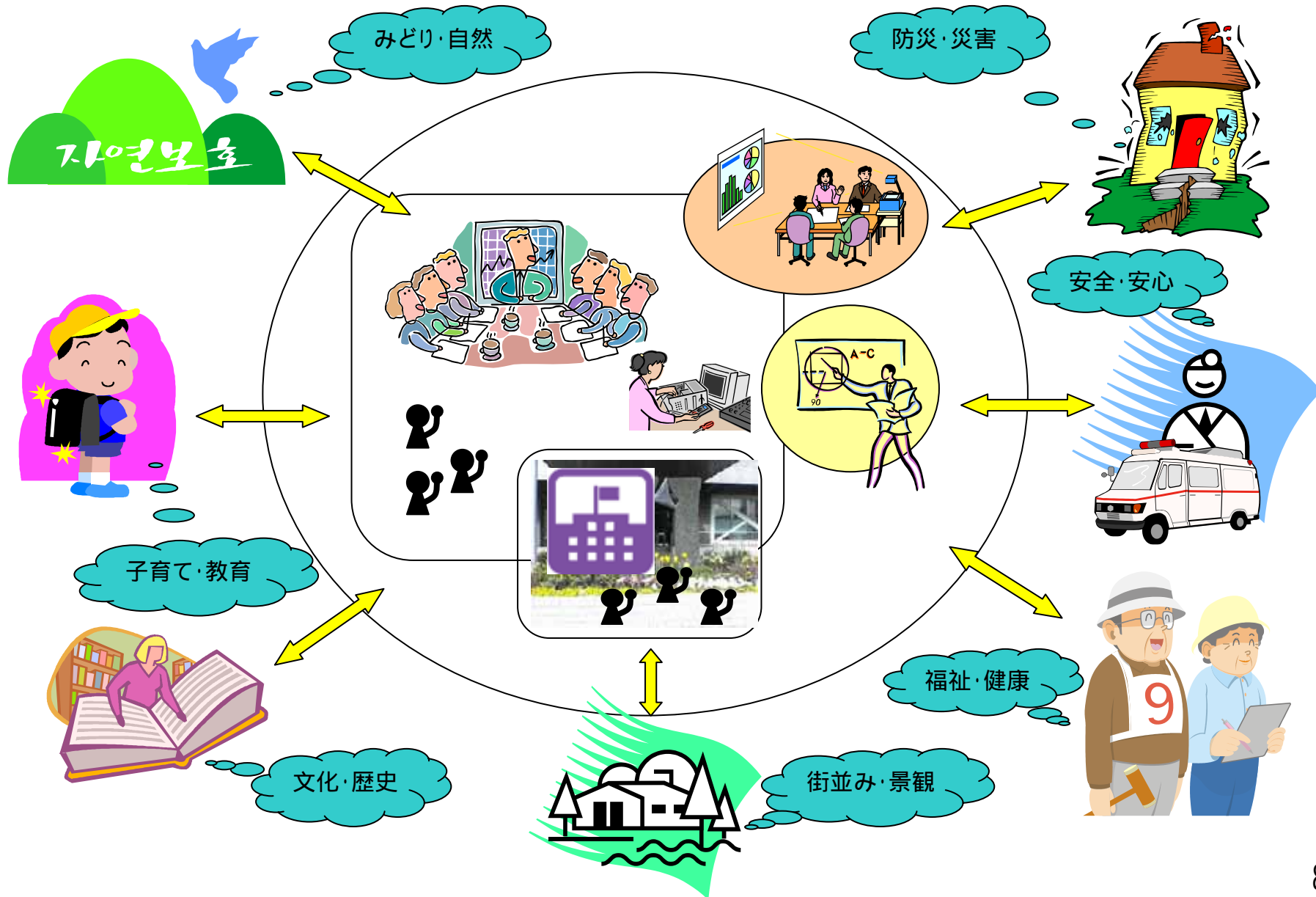
(地域課題の抽出・・・平成19年度後期・20年度～)



市民会議 (多様な意見の集約・・・平成20年度～)

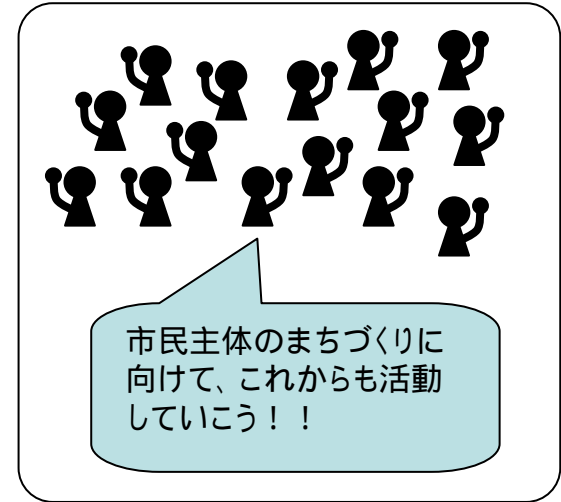
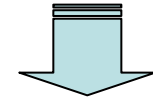
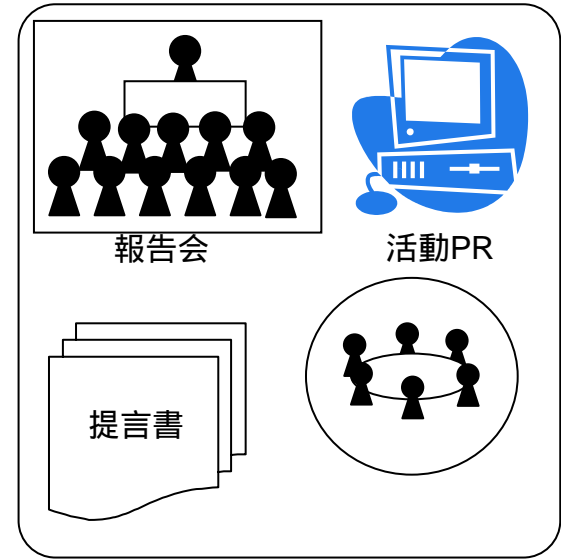
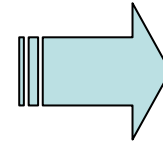
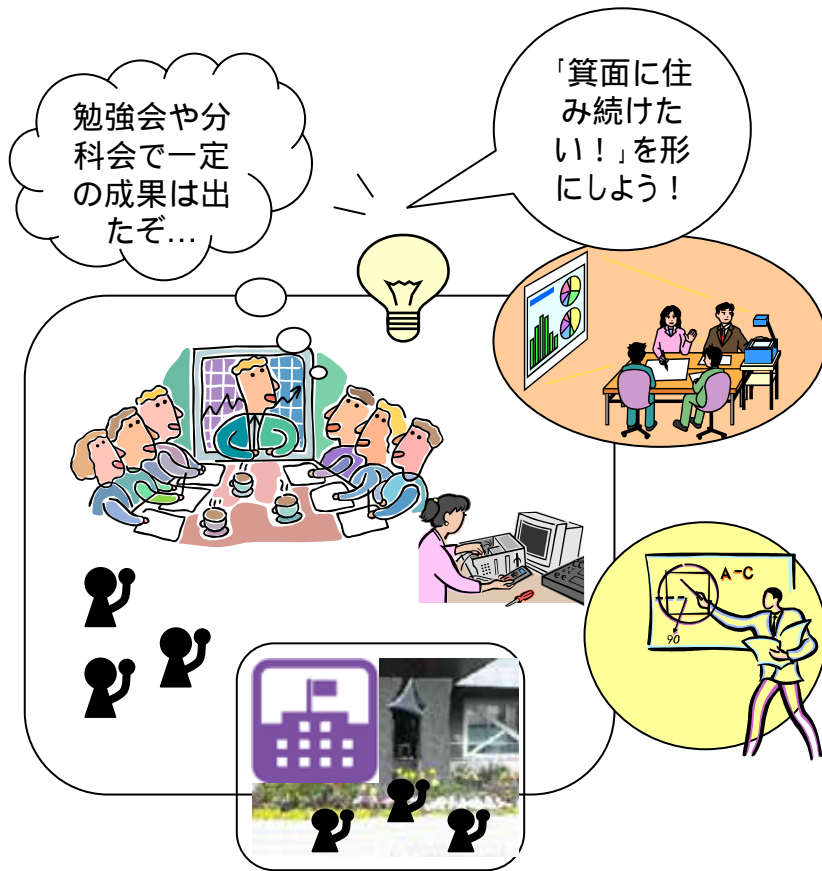


市民会議 (テーマごとの議論・・・平成20年度～)



市民会議

(提言のとりまとめ・・・平成20年度～)



市民会議・策定委員会・審議会等の関係

大学に期待すること

ノウハウ(学識経験者、専門家としての知識)
 データ(研究者として保持している膨大なデータ)
 学生(斬新なアイデア、市政に対する興味)

コンサルに期待すること

人脈(学識経験者や、適切な人を呼ぶことができる)
 ノウハウ(市民会議運営に関する知識や経験)
 データ(会社が保有する市民会議等に関する膨大なデータ)
 市民と行政の間に入る、クッションとしての役割

